



## ラートゲン教授ノ黄禍批評

瀧本, 美夫

---

(Citation)

経済學商業學國民經濟雜誌, 1(3):417-425

(Issue Date)

1906-08

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/00051043>



## ラートゲン教授ノ黃禍批評

東京高等商業  
學校教授

瀧本美夫

本誌第一號ニ於テマークス、ニーチエ氏ノ日本禍論紹介セラレタレバ獨逸人ノ懷ク日本觀ノ大體ハ既ニ讀者ノ承知セラル、所ナルベケレドラートゲン教授(Karl Rathgen)ハ嘗テ我東京帝國大學ノ教師タリシガ其ノ在留中ニ蒐集シタル材料ニヨリテ獨逸ニ歸リシ後千八百九十一年 Japans Volkswirtschaft und Staatshaushalt ト題スル約八百頁ノ一書ヲ公ケニシタル以來獨逸第一流ノ日本通トシテ知ラル、氏今ハハイデルベ

ルグ大學ノ經濟學教授ニシテ頗ル學界ニ重キヲナシ其著述モ少カラザル内ニ昨年公ニセラレシ Die Japaner und ihr Wirtschaftsleben ハ僅々百五十頁ノ小冊子ニ過ギザレドモ其敘事精確ニシテ如何ニ同氏ガ平生本邦ノ事情ニ注意シツ、アルカラ察スベキ者アリ此ノ書ヲ分テ第一章土地及住民、第二章國家及經濟生活、第三章貨幣及信用、第四章財政、第五章世界交通裡ニ於ケル日本第六章經濟上ノ黃禍、次ニ結論ノ七トシ尙附録トシテ本邦ノ歲出入表及輸出入表等ヲ添ヘタリ今此所ニハ其第六章黃禍論ノ大體ヲ紹介シ黃禍論ノ無稽ナル所以ヲ明カニスルト同時ニ我邦ノ經濟的發達ガ歐洲諸國ニ比シテ如何ニ幼稚ナルカラ明カニシテ自ラ戒ムルノ料トナサントス、同氏ノ說ハ即チ略々左ノ如シ

十數年來日本ノ產業ノ進歩ハ頗ル著シキモノアリ其結果トシテ輸出入品ノ種類モ追々ニ推移シタルコト左表ノ示ス所ノ如シ

|                                                                                               |      | 輸出     |        | 輸入     |        |
|-----------------------------------------------------------------------------------------------|------|--------|--------|--------|--------|
|                                                                                               |      | 明治二十一年 | 明治二十六年 | 明治二十一年 | 明治二十六年 |
| 食料品                                                                                           | 二元%  | 二元%    | 二元%    | 二元%    | 二元%    |
| 工業用原料                                                                                         | 五%   | 五%     | 五%     | 五%     | 五%     |
| 製成品                                                                                           | 三%   | 三%     | 三%     | 三%     | 三%     |
| 合計                                                                                            | 一〇〇% | 一〇〇%   | 一〇〇%   | 一〇〇%   | 一〇〇%   |
| 但シ生絲ハ原料ト見做シテ此表ヲ作レリ若シ之ヲ製成品ト看做サバ輸出品ノ比例ガ大ニ變スベキハ言テ埃ダズ輸入品中石油モ亦之ヲ原料ト看做セリ明治三十六年ニ於ケル食料品ノ輸入ハ例外的ニ多カリシナリ |      |        |        |        |        |
| 尙輸出品ヲ之ヲ生産スル產業ノ種類ニヨリテ區分スレバ左ノ如シ                                                                 |      |        |        |        |        |
|                                                                                               |      | 明治十六年  | 明治廿一年  | 明治卅六年  |        |
| 農產品                                                                                           | 七六%  | 六九%    | 三八%    |        |        |
| 林業生産品                                                                                         | 三%   | 三%     | 三%     |        |        |
| 海産物                                                                                           | 七%   | 五%     | 三%     |        |        |
| 金屬及其他ノ礦物                                                                                      | 七%   | 一一%    | 一三%    |        |        |
| 工業品                                                                                           | 七%   | 一二%    | 四三%    |        |        |
| 合計                                                                                            | 一〇〇% | 一〇〇%   | 一〇〇%   |        |        |
| 又之ヲ原始生産品ト工業及礦業生産品トニ區別セバ左ノ如シ                                                                   |      |        |        |        |        |

明治十六年 明治廿一年 明治卅六年

原始生産品

八六%

七七%

四四%

工業品及礦產品

一四%

二三%

五六%

日本ノ産業ノ進歩此クノ如ク著シキヲ以テ近

時歐洲ニ之ニ對シテ憂慮ヲ懷クモノアリテ遂ニ所謂黃禍說ナルモノヲ生ズルニ至リシガ願ミレハ嘗テハ先進國ノ文物ヲ習得スルニ熱心ナルヲ以テ激賞セラレタル日本人ハ今ハ却テ其習得シタル所ノモノヲ活用スルヲ以テ批難セラル旅行者或ハ新聞通信者杯ノ日本ヲ訪ヒシ者ハ其本國ヘノ報導ガ千篇一律ニ陷ルコトヲ避ケンガ爲メ殊更ニ其産業ノ進歩ヲ誇大ニ吹聴シテ恰カモ日本ノ商品ガ今ヤ既ニ東亞ノ市場ヲ蹂躪シツゝアルカノ如ク云ヒ昨ハ小兒ノ如シトシテ眞面目ニハ相手ニモセザリシ日本人ノ爲ニ今ハ却テ歐洲ノ先進諸國ガ危害ヲ受クル虞アリトテ危惧スルモノ少カラザルハ奇トイフベシ

思フニ日本ノ産業ノ進歩ノ速カナリシコト竝ニ世界貿易上ニ於ケル日本ノ地位ガ近時大ニ變

化シタルコトハ言フ迄モ無ク頗ル注目ニ値スル事柄ニシテ日本ホド速カニ巧ミニ外國ノ技術ト生産方法トヲ解得シタル國民ハ未ダ嘗テ之レ無ク全ク意想外ノ出來事ナリト云フモ妨ナシ然レドモ其進歩ノ速カナリシト云フモ實ハ其比較ノ標準ヲ歐米先進諸國ニ取リテ云フニ非ズ即チ其貿易ガ非常ニ増進シタリト稱セラルゝモ尙之ヲ歐米ノ商業國ニ比スレバ遙カニ少ク而カモ其輸出品中重要ノ地位ヲ占ムルモノハ製造品ニ非ズシテ原料品ナリ而シテ製造品ノ輸入ハ內國産業ノ進歩ニヨリテ毫モ妨ゲラレザルノミナラズ益増進シタルヲ以テ見レバ其産業ノ進歩ハ即チ購買力ヲ増ス所以ニシテ實ニ日本ノ爲ノミナラズ歐米諸國ニ取リテモ亦賀スベキ事柄ニ屬シ毫モ恐ルベキ事柄ニ非ザルナリ

今事實ニ徴シテ前言ノ虛ナラザルコトヲ明カニセンニ、先ヅ綿絲紡績業ニ付テ云ハ明治十九年ノ鍾數六萬五千ナリシモノ同三十五年ニハ百三十萬ニ達シ今ヤ日本ハ少量ノ細絲ノ外綿絲

ヲ輸入スルコトナク却テ盛ンニ之ヲ輸出スルニ至レリト雖モ之ガ爲ニ損害ヲ受クルモノハ必ズシモ獨逸ニ非ズ又英國ニモ非ズシテ實ハ印度ナリ而カモ印度ノ競争ニ打勝ツ爲ニハ日本ノ紡績會社ハ隨分困難ヲ嘗メ明治三十三四年頃ニハ無配當ノ會社甚ダ多カリシニ徴スルモ此ノ勝利ガ廉價ニ得ラレザリシコトヲ察スベキナリ況ンヤ支那モ亦遠カラズシテ自ラ内國製品ヲ以テ其需要ヲ充スニ至ルベク其場合ニハ日本綿絲ハ支那ニ於テ印度品ノ外ニ支那品トモ競争セザルベカラザルニ至ラン加之日本ノ鍾數ハ之ヲ瑞西、以太利等ニ比スルモ尙甚ダ少ク僅ニ三十餘年前ニ於ケル英領印度ノ鍾數ト略同數ナルニ過ギザルヲ以テ見レハ其前途必ズシモ安神ナリ難タ其現在モ必ズシモ盛ナラザルナリ而シテ綿織物ノ輸入ニ至テハ今尙年ト共ニ増進シツ、アルナリ又毛絲及織物業ハ明治三十二年以來進歩シタルモ其ノ原料ガ凡テ外國ヨリ輸入セラル、ノミナラズ毛製品ノ輸入モ亦益増進シツ、アリ次ニ硝子

製造業ハ大ニ發達セリト稱セラル、モ上等品ハ凡テ外國ヨリ輸入ヲ仰グヲ以テ輸入額モ亦年々増進シタリ其他製紙業、製皮業、マツチ業、麥酒釀造業等皆近時長足ノ進歩ヲナシタリト雖モ之ガ爲ニ必ズシモ歐洲諸國ノ利益ヲ害スルコトナシ例ヘバマツチ製造ノ盛ナルニ伴ヒテ其原料タルバラフイン其他ノ化學製品ノ輸入増加シ紙、皮革ノ如キハ内國製造業ノ發達セルニ拘ラズ尙益多ク輸入セラル麥酒ニ至テハ最初ヨリ多ク輸入セラレタルコトナケレバ現今其輸入殆ド絶無トナリタリトテ格別驚クベキコトニ非ザルナリ之ヲ要スルニ國際ノ貿易ハ對手國相互ノ産業ノ進歩ニ伴テ益發達スルモノナルコトハ近世商業史ノ明示スル所ナルニ拘ラズ獨リ日本ニ限り其産業進歩ガ歐洲トノ貿易ヲ減退セシムルモノナルカノ如クニ思爲スルモノ多キハ頗ル奇怪ノ事トイフベシ

次ニ日本人ガ企業心ニ富ミ會社組織ノ企業近時大ニ日本ニ行ハルトテ驚畏スルモノアレドモ

其會社ノ規模甚ダ小ナルヲ以テ其數ノミヲ歐洲諸國ノモノト比較スルハ不當ナリ蓋シ日本ニ於テ企業心ニ富ムモノハ多クハ士族ニシテ士族ハ資本ヲ有セザルガ故ニ個人企業ヨリモ會社組織ノ企業多キハ自然ノ數ト云フベク明治二十七年ニ會社ノ數ハ二千八百四十四ナリシモノ明治三十五年ニハ八千六百ニ増加シタルヲ見レバ其發達ノ速カナルコト驚クベキガ如シト雖モ其拂込資本ハ僅ニ五億參千參百萬圓ヨリ八億七千九百萬圓ニ増加シタルニ過ギズ又此ノ八千六百ノ會社ノ中二千九百二十一社ハ資本金壹萬圓ニ滿タズ其資本金拾萬圓以上ノモノハ僅カニ千九百〇四社ニ過ギザルナリ又工業會社ノ資本金ハ明治三十年ニ一社平均五萬六千圓ニシテ明治三十五年ニハ同七萬千圓ニ過ギズ又之ヲ工場統計ニ徵スルニ明治二十七年ニ於ケル全國工場ノ馬力數ハ四萬千餘ナリシモノ三十五年ニハ十萬許トナリテ八年間ニ約六萬馬力ヲ増加セシガ千八百九十七年千九百〇一年ニ至ル四年間ニプロシヤノ

蒸汽機關ノ馬力數ハ二百八十八萬二千ヨリ三百十七萬ニ増加シタルニ比スレバ雷ニ霄壤ノ差ノミニ非ザルナリ況ンヤ日本ノ男女勞働者總數約五十萬ノ中二十六萬竝ニ機關馬力數ノ約五割七分ハ絹、綿絲紡績及鑛業ニ用キラル、ガ故ニ少クモ獨逸ニ取リテハ競爭者タル地位ニ在ラザルモノナリ

次ニ日本ノ製品ハ主トシテ安物ニシテ其ノ東洋諸國ニ輸出スル洋傘ノ如キハ一個五拾錢乃至七拾五錢ト云フ安直物ナルガ之ガ爲ニ果シテ歐洲品ノ販路ヲ狹バメラル、ヤ否ヤト云フニ勿論場合ニヨリテハ多少歐洲品ノ不利益トナコトアレドモ全體ヨリ見レバ此クノ如キ患ハ殆ンド全ク存セズト云フモ可ナリ支那ノ輸入ニ付テ觀察スルニ

| 輸入(再輸出シタル)<br>總計(モノヲ除キ) | 千八百八十八年  | 千九百〇二年  | 増加額     |
|-------------------------|----------|---------|---------|
| 内譯                      | 百萬兩      | 百萬兩     | 百萬兩     |
| 日本ヨリ                    | 一、二〇、〇〇〇 | 三三、一、二二 | 二二、一、二二 |

十七年千九百〇一年ニ至ル四年間ニプロシヤノ

米國ヨリ

三、五

二八、〇

二四、五

歐洲(露國ヲ除ク)ヨリ

二八、四

七九六

五一、二

香港ヨリ

六六、六

一三五、〇

六八、四

又同國ニ於ケル綿絲ノ輸入ノミニ付テ見ルニ

千八百八十九年

千九百〇三年

英國ヨリ

五〇、〇〇〇

一七、〇〇〇

印度ヨリ

六二八、〇〇〇

一、八八一、〇〇〇

香港ヨリ

一

九、〇〇〇

日本ヨリ

一

八三一、〇〇〇

サレバ日本ヨリノ輸入ハ歐洲或ハ其他ノ地方ヨリノ輸入ト共ニ増進シタルコト明カナレドモ歐洲品ガ日本品ノ爲ニ驅逐セラレタリト云フハ正鵠ヲ得ザルナリ

又一國産業進歩ノ程度ハ石炭及鐵ノ消費高ニヨリテ推測スルヲ得ルモノナルガ日本ニ於ケル石炭ノ產出高ハ明治二十三四年頃ハ二百萬噸バカリナリシモノ三十五年ニハ九百七十萬噸ニ増加シタリト云ヘドモ内國ニ於テ消費セラルハ尙僅カニ六百萬噸ニ達セズ即チ人口一人宛百三十「キロ」ニ過ギズ之レ即チ千八百四十八年獨逸

ノ消費高ニモ及バザル少量ナリ又鐵ノ產出ハ甚ダ少ク内國產及ビ支那ヨリ輸入シタル鑛石ヲ以テ生産セラレタルモノ明治三十四年ニ僅カニ七萬噸ニ過ギズ之レヲ獨逸ガ千八百四十八年ニ既ニ二十萬五千噸ヲ產出シタルニ比スレバ其ノ差ノ大ナル寧ロ驚クベキモノアリ而シテ鐵及ビ銅ノ輸入ハ二十萬乃至三十萬噸ニシテ之ニ内國ノ產額ヲ加フルモ日本ニ於ケル鐵ノ消費ハ三十萬噸ヲ超ユル事多カラズ即チ人口一人宛僅カニ七「キログラム」ニ過ギズ之レヲ露國ニ比スルモ尙遙カニ少量ナリサレバ日本ガ急速ニ進歩シタル事ハ疑ヒナキ所ナリトスルモ先進諸國ニ比スレバ其之レニ及バザル事甚ダ遠シ思フニ鐵ノ缺乏ハ今後ニ於テモ日本ノ産業ノ進歩ヲ妨グル事少カラザルベシ

マタ生産ノ發展ハ資本ト人材トニ由ラザルベカラズ然ルニ日本ニハ資本少ナク利率高クシテ非常ニ多クノ利益ヲ得ベキ事業ニアラズンバ之レニ着手スル事能ハズ是レ確カニ産業ノ進歩ヲ

障害スル一原因ナリ又日本ニハ組織ノ才ヲ有スル人物甚ダ少ク多クノ大企業ニ於テハ組織ノ不完全ナル爲メニ時間ト勞力トヲ徒費スル事多キハ識者ノ一般ニ認ムル所ナリ又日本ニハ人格ノ強固ナル人物ナク又深キ學問的ノ研究ヲナスモノナク常ニ他國人ノ模倣ヲ事トスルヲ以テ將來ニ於テモ大發明家ヲ生ジテ偉大ナル産業ノ進歩ヲ來スコト果シテ之アルベキヤ甚ダ疑ハシト云フベシ世ニ黃禍ヲ説ク者少カラザルモ歐洲ノ工業ト競争シテ之ヲ壓倒スルホドノ大企業家ガ日本ニ存スルコトヲ證明シ得ルモノハ之レナカルベシ蓋シ生産ハ勞働者ノミニ依テナサル、モノニ非ズ寧ロ企業者ガ最モ重要ナル働キヲナスモノナルコトハ言フ埃タズシテ明カナル所ナルニ

日本ニ適當ナル企業者ナシトセバ其産業ノ前途モ略々知ルベキノミ又日本ノ勞働賃金ハ非常ニ安シトハ從來人ノ唱フル所ナレドモ近年大ニ騰貴シテ現今ニテハサマデ安カラザルノミナラズ今後物價ノ騰貴ニ伴ヒ益騰貴スベキハ疑ヲ容レ

ズ勿論現今ニテハ歐洲ニ比シテ尙甚ダ安シト雖モ勞働者ノ功程甚ダ少ク又賃金ノ安キ結果トシテ勞働ノ濫用行ハレ機械未ダ十分ニ利用セラレザルノ弊アリサレバ日本ニ於クル賃金ノ安キハ即チ實ハ其産業ノ未ダ大ニ恐ル、ニ足ラザル所以ナリ

然レドモ日本ノ産業モ今後漸次ニ進歩スベキハ言フ埃タズ隨テ東洋諸國ニ對スル輸出モ増進シテ間々歐洲商品ノ販路ヲ狹ムルコトモアルベシト雖モ其輸出ノ増進ハ即チ一面ニ於テ其輸入ノ増進ヲ意味スルモノナリ蓋シ日本ニハ現今尙自足經濟ノ行ハル、部分アルベク其貿易額ハ人口ノ多キ割合ニハ甚ダ少シ今後交通經濟廣ク日本ノ隅々迄モ行ハル、曉ニハ其輸出入ノ増進測ルベカラザルモノアランサレバ日本ノ輸出ノ増進ガ如何ニ急激ナリトスルモ輸出ノ増進ハ必ズ輸入ノ増進ヲ伴フ以上ハ此レ決シテ歐洲人ノ憂悵スベキ事柄ニ非ズシテ却テ日本人ト共ニ慶賀スベキ事柄ナリト云ハザルベカラズ山東省地方

ニ在ル獨逸商人中頻リニ日本商人ノ競争ノ有力ニシテ且ツ往々其卑劣手段ヲ弄スルコトアルヲ云々シテ黃禍ヲ説クモノアレドモ競争ノ激烈ニ趣ムクハ實ハ交通機關發達ノ結果ニシテ必シモ東洋ニ特有ノ現象ニ非ズ世界何レノ地方ニ行クモ商人ガ一ヶ月僅カニ二三回ノ郵便<sup>イールド</sup>日ヲ除クノ外常ニ飲酒或ハ遊戲ニ耽リテ悠々タルヲ得シ時代ハ既ニ過ギテ今ハ不斷ノ勤勉ヲ以テスルモ尙且ツ貿易上ノ勝利ヲ得難キニ苦シムヲ常トス獨逸商人中ニハ支那語ニ通ゼザルモノアリ又恐クハ對支那人ノ掛引ニ於テ未ダ巧妙ナリト云ヒ難キモノモナキニ非ザルベシ然ルニ日本商品ガ其市場ヲ蠶食スルノ罪ヲ全然日本人ニ歸シテ黃禍説ヲ唱フルハ盡シ早計ノ甚ダシキモノナラン見ヨ獨逸商人ハ英國產ノ商品ヲ東洋ニ輸入スルコトニ於テ既ニ或ル程度迄成功シ又日本人ハ韓國ニ對スル歐米商品ノ輸入ヲ獨占スルニ於テ成功シタルニ非ズヤ苟クモ商人ニシテ手腕ヲ有スル時ハ本國商品ノ廉價ナルト否トニヨリテ必ズシ

モ其地位ヲ動搖セラレザルナリ

サテ日本ノ貿易ハ從來主トシテ同國ニ在留スル外商ニヨリテ行ハレシガ近時直輸入ヲ行フモノ漸ク増加セントス蓋シ日本人ハ自信アリ才能アル國民ナルガ故ニ今後モ尙長ク從來ノ如クニ貿易上ニ於テ無能力者同様ノ取扱ヲナシ難キハ言フ迄モ無キ所ニシテ勿論外商ノ地位ガ今劇カニ動搖スルコトハ之ナカルベキモ多少ノ變化ハ早晚起ラザルヲ得ズ今ノ時ニ於テ獨逸人ノ最モ注意スベキハ日本人ヲ敵視シ或ハ之ヲ見下スコトヲ避ケ虛心坦懷相提携シテ相互ノ利益ヲ増進スルニ在リ然ルニ若シ黃禍説ヲ振り廻ハスガ爲ニ彼遼東還附一件ニヨリテ日本人ノ胸中ニ萌シタル惡感情ヲ尙一層亢進セシメ獨逸ノ競争者タル英米諸國ヲシテ貿易上ニ於テモ漁夫ノ利ヲ得セシムルコトアラハ獨逸ノ失フ所誠ニ尠少ニ非ザルナリ

以上ハ即チラートゲン教授ノ所論ノ大要ニシテ其意ハ要スルニ黃禍説ハ事實ノ根據ヲ有セズ

又之ヲロニシ或ハ筆ニスルハ極メテ不謹慎ナル  
所業ナリト云フニアリ勿論同氏ノ所論悉ク當ヲ  
得タリトモ云ヒ難ク彼ノ日本ニ強固ナル人格ヲ  
備フル人物ナシト云ヒ或ハ日本ニ大企業家ハ現  
ハレザルベシト云ヘルガ如キハ獨逸ニテモ既ニ  
反對說ヲ惹キ起シタル所ナリト雖モ我國ノ經濟  
的發達ガ尙未ダ極メテ幼稚ニシテ歐米諸國ト比  
較ニモナラザル事ハ眞ニ同氏ノ說ノ如シ我國ノ  
人幸ニ戰勝ニヨリテ漫心スルコト無クンバ可ナ  
リ